

## 吉川講師退官によせて

昭和57年4月1日付をもって、吉川勝好講師は長年の勤務を終えて定年退職されることになりました。

吉川さんといえば誰でもがツギ木、花木の育成を思い出すように、演習林の主に本部試験地を中心に、長い年月にわたって、この方面の仕事に打ちこんでこられました。

戦後まだ間もない昭和25年の3月、「生きた化石」として世間を騒がせながら導入されたメタセコイアは、ここ演習林で育てられ、サンキ増殖されて広く全国に拡がっていったのですが、その労は吉川さんに負うところが大きかったといえましょう。

このメタセコイアを台本としての近縁種のツギ木の実験が吉川さんの手で数多く行われましたが、京都の野外では十方育ちえなかったギガントセコイアがメタセコイアを台本として立派に生長したことは、忘れられない仕事の一つであり、このツギ木は今日なお、本部試験地で生育を続けています。

つづいて外国産のマツ属の導入がさかんに行われ、上賀茂試験地に植栽されはじめたことを契機として、これらを材料としてマツ属のツギ木の研究に専念されました。もともとこの種の研究は試行錯誤的な仕事が多いのですが、今日まで手がけられたツギ木の数はどれ程になるでしょうか。マツ属のツギ木だけをとりまいても十数年にわたって、熱心に、かつ、丹念に実験を繰返えされてきました。その成果は「マツ属のツギ木に関する研究」として、学位論文としてまとめられたことはまことに喜ばしいことであります。

ツバキやサクラの類の育種についての仕事も忘れてはならない業績であります。徳山試験地が昭和40年に現在地に移転した折、吉川さんのつくられたヤマザクラが林道沿いに植えられました。1本1本番号をつけたこのサクラは今日美事な花を咲かせるようになりました。数理解析研究所の前の親木は衰退しましたが、2代目が徳山と上賀茂に育っています。

吉川さんは仕事の面での様々の業績に加えて、演習林、とりわけて長年主任をつとめていただいた本部試験地を単なる実験苗畑としてではなく、美しい庭園に育てあげ、管理運営をしていたいただきました。そして、今日、何かと手せまになり建物のみが競いたつ本学講内では、得がたい異色の場所となりつつあることは演習林としての一つの誇りといってよいでしょう。長年の吉川さんの努力に感謝するとともに、今までと変わらず、いや今まで以上にこれらの樹木や庭園を守り育てていくことが、今日までの吉川さんの努力に応える最良の道であると私は思うのです。

昭和57年1月

京都大学農学部附属演習林長

堤 利 夫